

募集

広く親しまれ、好感の持てるネーミングを ふれあいバス路線の愛称を募集します

現在、市内を運行している「ふれあいバス」3路線の愛称を募集します。

- ▶ 応募資格 どなたでも応募できます。
- ▶ 愛称に求めるもの 広く親しまれ、好感の持てるネーミング
- ▶ 応募方法 市役所総合窓口、豊田支所、政策情報課にある応募用紙に3路線それぞれの愛称、住所、氏名、連絡先を記入の上、提出してください。▲QRコード

- ▶ 提出場所 市役所総合窓口、豊田支所、政策情報課に持参いただくか、郵送、ファクス、Eメールでも受け付けます。
- ▶ 応募期限 8月1日(火)
- ▶ 発表方法 広報なかの、市公式ホームページなどを通じて発表します。また、採用された方には賞品を贈呈します。(同じ愛称の応募が多数の場合には、抽選といたします)

ふれあいバス3路線とは？

①倭・科野地区

「市役所」－「岩井東」間の北部地区を運行

②間山線

「市役所」－「間山温泉公園」(ぼんぼこの湯)間を運行

③豊田地域

「上今井」－「三俣」間の豊田地域を運行



▲倭・科野地区および間山線は、中野西高校美術部の皆さんがデザインしたラッピングバス(写真左)が走行。豊田地域は中野立志館高校美術部の皆さんがデザインしたラッピングバス(写真右)が走行しています。

問い合わせ・応募先 政策情報課政策推進係 ☎(22)2111(内線216)

着任

「一緒に地域を盛り上げていきたい」 地域おこし協力隊に田中善大^{たなかよしひろ}さんが着任

6月1日、本市2人目の地域おこし協力隊に、仙台市出身の田中善大さんが着任し、市役所で委嘱式を行いました。

当日は、池田市長が「広く中野市全体を見渡して、豊田地域の発展を図ってほしい」と激励し、田中さんにエールを送りました。

田中さんは、豊田地域をモデルケースとして進める「小さな拠点」の仕組みづくりや、豊田農産物加工施設のさらなる有効活用など、豊田地域での地域振興を目指して活動を行います。



▲豊井小学校2年生と大豆の豆まきをして交流

▼斑尾ふるさと祭りではリンゴジュースをPR



Interview 〆 ～田中隊員に聞きました～

「地域おこし協力隊」に応募したきっかけは？

母の実家が新野にあり、小さい頃からよく遊びに来ていました。父の仕事の関係で引っ越しが多かった私にとって、北信五岳や高社山が広がる景色こそが自分の「故郷」だと感じていて、いずれは住みたいと思っていました。

しばらくの間は単身赴任

替佐に家を借りて単身赴任中です。今年の3月に結婚した妻は仕事の関係で仙台に残っていますが、年内か来春には夫婦そろって中野での生活が始まる予定です。

市民の皆さんに一言

任期のある仕事なので、私が退任してからも地域の人が続けられること、持続可能なものをつくっていききたいです。地域を知るために、多くの方にお会いして直接お話がしたいので、見掛けたら気軽に声を掛けてください。

問い合わせ先 豊田支所地域振興課振興係 ☎(38)3111(内線141)

市民リレー元気の輪

No.31

宮澤靖子さん
からのご紹介



○自己紹介

生まれは群馬県の小串鉾山というところ。スキーが盛んで、私も小学生のときからやっています。高校は東京の学校に行っていました。卒業後は実家がある穴田で仕事をしていました。

ここは交通の便がよく、妙高、赤倉、立山、谷川岳などスキーをしながらの山々へよく出掛けたものです。村にもスキークラブがあり、週末に仲間たちとスキーへ行くのを楽しみに過ごしていました。リフトと徒歩でスキー板を担いで2、3時間掛けて山を登り、帰りは20分ぐらいで滑って下る。そんなスキーを楽しんでいました。



津金 義二 さん (穴田)

ボールを毎週のようにしています。市のゲートボール連盟の会長もやっております。県大会などの運営にも関わっています。

ゲートボールは、仲間と作戦を立てて、コミュニケーションを取りながら勝利を目指すスポーツです。頭を使い、人との交流が多いので、ぼけ防止と健康維持にも役立っています。

○元気の秘訣

くよくよと深く考え過ぎないで、自然体でいること。昼間は農作業をして、3食をしっかり食べて、間食はしないこと。晩酌も毎晩してはいますが、健康診断で異常が出たことはありません。あまり健康のことを気にし過ぎないことも大事だと思います。

○おらほの自慢

空き家が多くなってきた、心配ごとが多くなってきましたが、9月中旬に行われる秋祭りは健在です。八幡神社で行われる祭りは、神楽と獅子舞が舞い、打ち上げ花火とスターマインが華やかに夜宮を輝かせます。特に、花火は遠くからでも見えますので、音が聞こえたら立ち寄ってみてください。

池田市長の

わくわくレポート

vol. 44



2017信州なかのバラまつりを終えて

2017信州なかのバラまつりが、5月27日から6月11日までの16日間にわたり開催され、今年は昨年より多くの皆さんにご来場いただきました。今年はまつり終了後もバラの見頃が続き、さらに多くの皆さんにバラの香りと鮮やかな色彩を楽しんでいただけたことをうれしく思っています。

多機能で市民の皆さんが誇れる、そして域外の人から憧れのまなざしで見られる公園の充実に向け今後とも努力していきたいと思う。

さて、今年は、ばら制定都市会議が横浜市で開催された。全国都市緑化フェアに併せての開催であったが、日本大通りに都市会議加盟自治体のバラが並んだ姿を見て、ひとしきりうれしさが込み上げた。長野県では、この都市会議に中野市と坂城町が加盟しているが、今年は伊那市にも加盟を決めていただいた。自然豊かな長野県にあって、バラの都市ラインが形成されるのも新たな魅力創生に繋がるものと思っている。



バラはバラ科バラ属に分類される植物で、バラ科には実に多くの果物が属している。ちなみに中野市の特産であるブドウ、リンゴなどはバラ類に分類され、バラは中野市に実にふさわしい花木であると思う。特に、中野市の一本木公園は市の中心部にあり、観光資源としてのポテンシャルは高い。今年来園されたお客様から「バラ公園が町の中にあって驚きました」「うらやましいです」との声をお聞きし、想いを新たにしたい。

必ず喜ばれる。その中にもあってバラは、世界中の多くの皆さんに愛されている花だと思ふ。インバウンドで海外からの観光客を呼び込む一つの魅力として、ますますバラ公園の充実に取り組んで行きたいと思う。それにつけても一本木公園バラの会の皆さんやバラまつり実行委員会の皆さんなど、市民協働があつて、継続的な展開が可能となるものであり、今後とも、まさに公民連携での取り組みを展開していきたい。